

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター れいんぼ～		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年2月28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	80	(回答者数) 55
○従業者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年2月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2007年3月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	フォーマルアセスメント（Vineland-Ⅱなど）とインフォーマルアセスメント（れいんぼ～独自の評価）に基づいた療育支援	根拠に基づいた支援を行い、日々の活動ごとに評価（モニタリング）を行っています。	インフォーマルアセスメントの充実 アセスメント結果の有効活用
2	専門職によるチーム支援	専門職がそれぞれに支援をするのではなく、同じ活動に様々な専門職が同時に関わることで多角的な視点が持てるようにしている。 ミーティングではそれぞれの専門性を生かしてよりよい支援に向けて意見交換をしている。	専門性の高い職員の育成 チームアプローチ力向上のための研修の実施
3	充実した保護者支援プログラム（勉強会、ペアレントトレーニング、支援ツールワークショップ）	保護者の方のニーズに応じた支援プログラムを用意し、日々の子育てに役立つ内容を取り入れている。 保護者同士の交流ができるように心掛けている	きょうだいにに向けたプログラムについての検討

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	れいんぼ～の各種マニュアルや安全計画について保護者への周知が不十分。	日々の療育内容の説明に重きを置きすぎてしまい、マニュアルや安全計画について保護者との間で話題にすることが少ない。	れいんぼ～通信などを通じて、こまめに情報を伝えていく。
2	職員の配置数にゆとりがない。	配置数にゆとりがないために、業務多忙、職員への負荷が大きくなり、長く勤務する職員が減っていく悪循環。	求人を行う 業務内容を見直し、負担軽減を図る。
3	高崎市の自立支援協議会のなかに子どもに関連する部会がなく、地域の課題について共有、検討が難しい。	地域の課題を話し合う場がなく、事業所同士のつながりが弱い。	地域の事業所と積極的に連携をしながら地域の課題等を検討する機会を設け、市町村と協議ができるように努める